

## 【大阪堂島商品取引所 経営改革協議会 協議会委員 中間まとめ】

### [第1回会合取りまとめ]

主題：生産者側から見たコメ先物市場の現状

今までの問題点：

#### ①生産当業者（農家、集荷、卸、小売）

- ・昭和14年（1939）の米穀配給統制法施行後、コメは長期にわたり統制商品として自由な価格形成ができない状態が続いた。つまり市場機能は必要なかったため、大多数の生産者に先物市場を利用する必要性とそれを理解するための知識がなかった。
- ・コメの現物市場は未だに最大の農業組合であるJAの影響が強く、先物市場を受け入れない体質が継続されてしまっている。

#### ②市場構成者（ブローカー、マーケットメイカー）

- ・商品先物ブローカー中心で、日本の商品先物業界が抱える顧客と市場規模がシュリンクしている。
- ・インターネット取引環境が脆弱な状態にある。

#### ③市場参加者（投資家、投機家）

- ・流動性とボラティリティが低く、投資効率が低い。またコメ先物は事実上ネット取引ができない。
- ・投資家、投機家のコメ先物を積極的に扱うインセンティブが働いていない。

今後の問題点：

政府におけるコメ政策は、抜本的な改革（自由化）の時期にあり、ソフトランディングの中、現行の補助金制度は将来的になくなり、自由な価格競争が取り入れられる。

検討事項：

生産者側にコメ先物を利用するメリットが感じられたら参加が増える。  
(コメが高く売れるか、収入が増えるなら多くの生産者がコメ先物市場を使う可能性が高い)

方針：

- ・生産者側への市場参加メリットを明確にし、広く啓蒙して生産者の市場参加を促進させることで国内農業の活性化を図ること。
- ・JA中心の現物流通市場において、先物市場を利用した時のメリットを理解していただけるよう努めること。

[第2回会合取りまとめ]

主題：バイサイド・マッチングサイドのコメ先物利用

問題点：取引参加者が少なく、市場流動性が不足している

検討事項：

多岐にわたる業界から多様性のある市場参加者を募り、市場運営に厚みを持たせること。

方針：

コメ先物発祥の地という歴史を背負い、アジアの中心的な農産物市場に育てる。

[第1・2回質疑応答における経営改革のポイント]

主題：経営環境の改善とコメ先物市場の本上場

問題点：

- ①日本における商品先物業界の根本的な問題がある。
- ②会員組織ゆえの現経営及び運営の問題がある。
- ③コメ先物からの関連収益だけで短期的に黒字改善するのは非常に困難
- ④投資家が参加意欲を起こすような市場がない（上場銘柄及び商品設計）。
- ⑤ITインフラの整備が大幅に遅れている。

検討事項：

- ①会員の協力によりコメ以外の既存商品の活性化など多様な収益構造を検討すること。
- ②コメを含む参加者の嗜好にあった多様な商品を提供し、サステイナブルな取引所にする。
- ③コメ先物を長期的に育てられるように本所の中・長期計画を策定すること

以上